



工藤博利議員

一般質問

● 深浦町に人口減少問題の対策を示せ

答弁：今年度中に新たに策定予定の深浦町人口ビジョン・総合戦略の基本目標として掲げた「産業・雇用対策」「移住・定住対策」「少子化対策」「地域活性化対策」の指標と目標に向けた取組を着実に実施する。

① 深浦町第二次総合計画の実現性と成果はどうであったか。

深浦町第二次総合計画は、平成27年度から令和6年度までの10年間にわたる「まちづくり」のあるべき姿と進むべき方向を示した計画である。

町の将来像の実現に向け、必要となる個々の施策・事業について平成27年度から令和元年度までの5年間を前期基本計画とし、保健・医療・福祉施策、産業振興施策、環境保全・生活環境施策、教育・文化施策、住民協働・行財政施策の5体系を設け、27の施策に取り組んでいる。

現在、それぞれの施策につき着実に実施していると認識しているが、平成31年2月に実施した「まちづくり住民アンケート」の結果から、地元企業の活性化や公共交通の利便性向上、働く場の確保等まちの賑わいに関しては、まだまだ不十分であるとのご意見を真摯に受け止め、各施策の

内容や状況を検討し、まちづくりの将来像実現に向け、着実に取り組んでいきたいと考えている。

② 来年度は深浦町第二次総合計画の後期計画がなされるが、重点事業及び人口減少対策の内容は。

深浦町第二次総合計画後期計画における重点事業は、「まちづくり住民アンケート」の結果から、地元企業の活性化や公共交通の利便性の向上、働く場の確保等まだまだ不十分だと感じる住民の意見を踏まえ、特に産業振興施策に関して重点的に取り組むべきであると考えている。



今後は、地域づくりの施策として、近隣の地域間における地域コミュニティの連携の検討、各地区における生活環境機能の現況を確認しながら、維持が困難な地区においては、居住区域を集約した場合の効果を検証しつつ、生活拠点となる地区の整備に向けた検討が必要であると考えている。

これに併せ、隣接する旧深浦消防跡地の利活用についても、大岩を訪れる観光客用の駐車場として、また、深浦駅前には停車している観光バスの駐車場等として整備していきたいと考えている。

③ 当町が乗り継ぎ駅であるため、駅前に観光バスが所狭しと待機しているが、その数を調査したことはあるか。また、国道に一般車両が停車し、大変危険な状況となっているが、観光バス専用の駐車場及び駐車帯を整備する考えは。

2018年度における深浦駅の乗降客数は、夏季と冬季で大きく差異があるものの年間平均では4197人、年間約5万人の方が利用している。

昨年度の乗降客数は前年比でやや増加したものの、最近5か年で見ると減少傾向にあり、駅周辺の商店等についても、お客様の利用は減少していることを認識している。

また、人口減少対策の計画内容については、「深浦町人口ビジョン・総合戦略」を今年度中に新たに策定予定であり、現在の人口ビジョン・総合戦略の基本目標として掲げた「産業・雇用対策」「移住・定住対策」「少子化対策」「地域活性化対策」を掲げ、これまでの指標と目標値の達成度を振り返り、新たに数値設定することになる。

③ 国及び厚生労働省の人口調査と当町で作成した推計との間で、人口減少率に格差があったが、この違いは何か。

国の人口調査については、総務省が2015年（平成27年）に実施した国勢調査を基に、国立社会保障・人口問題研究所が平成30年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」の推計値に準拠しており、当町における2035年（令和17年）の推計人口は4415人とされている。

JR東日本秋田支社からの情報によると、来年度及び再来年度に当該地域が販売重点地域になる予定であることから、地域経済振興のためにも商店街の活性化は重要課題として認識し、引き続きJR等との連携を高めていきたい。

④ 今、全国の町村でも、コンパクトな街づくりに変化してきている。当町でもそのような構想が必要だと思うが、町長の考えは。

中心市街地を核とした住居や都市機能を集約するコンパクトシティを推進している全

また、観光トップシーズンになると、大型観光バスによるツアーで、五能線沿線の特段景観の良い区間だけ（例

一方、平成27年12月に町が策定した人口ビジョンによる推計人口については、2010年（平成22年）に実施した国勢調査を基に、国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表した当時の推計値を基に、2035年（令和17年）の推計人口は5057人と算定した。

国と町のそれぞれ推計値を出す国勢調査の基準年が異なることで、このような差が生じたものと思われる。これにより、最新の国勢調査のデータを活用した場合の方が、人口減少が加速していることが読み取れる。

工藤議員

④ 今、全国の町村でも、コンパクトな街づくりに変化してきている。当町でもそのような構想が必要だと思うが、町長の考えは。

ご指摘のとおり、限られた駅前駐車スペースの中で安全を十分確保することは重要であると考えており、町では混雑期の駅前を利用する一般車両について、今一度状況把握に努め、今後の駅前整備の方向性を検討したい。

例えば千疊敷駅から深浦駅間、若しくは十二湖駅から深浦駅間の五能線乗車体験、いわゆる「部分乗車」を行い人気を博している。



▲ 深浦駅に駐車する観光バス

深浦駅前整備計画の進展と実現性は

工藤議員

① 当町の顔である駅前整備計画があったが現在の進捗状況は。整備に当たり、土地権利者との協議は進んでいるのか。また、周辺の土地利用について協議はしているのか。

町長

現時点で、土地所有者との交渉は難航し、残念ながら整備計画は頓挫している状況であり、周辺の土地利用については、少し離れた深浦医院跡地に大手コンビニ業者の誘致